

平成 2 9 年 度

市 長 施 政 方 針

平成 29 年 2 月 21 日

平成 29 年度 市長施政方針

(はじめに)

平成 29 年第 1 回長久手市議会の開会にあたり、新年度における施政方針と当初予算案の主要施策についての概要を申し上げます。

私は市長になる前は、一市民として、市の総合的な指針である「総合計画」はじめ、そのほかの個別計画について、ほとんど知らずに生活してきました。

多くの市民のみなさんも、同じではないでしょうか。しかし、市長になりそれらの計画を読んでみると、「市民の意向調査」や「市民参加」に基づいて策定した計画と書かれています。

私は、市が取り組む事業は、市民参加や市民が主体性を持って行うことが基本であると考えています。なぜなら、

そうすることによってこそ、自分が暮らす地域に役割が生まれ、「自分は必要とされている」ということを実感することができる機会が増えるからです。

従って、行政の仕事を身近な小学校区ほどの小さな単位で行い、市民が当事者となり、市民の手により、地域で運営されることが増えるよう引き続き、取り組んでいきます。

その先行事業として、昨年、岩作地区の旧市街地において、道幅が狭いという長年の課題に対して、地域のみなさんと話し合い、優先して整備すべき道路を決めていただきました。

従来こうした問題については、市役所が整備計画を定め、地元の説明の上、事業を進めてきましたが、今回は地域の意見を反映した整備計画を定めるために、みなさんがまち歩きをしたり、道幅が4メートル未満の道路に関する法律の勉強をしたり、火災が起きたときの危険性を考えたりするなど、様々な視点で議論を重ねていただいた結果、優先

道路を決めて、重点的に事業を実施していくことが提言されました。この提言を受けて、市としての整備計画を策定することができました。これをふまえて新年度予算には、優先道路の測量調査費を計上いたしました。

このように地域が抱える問題解決のためには、市役所だけで決めるのではなく、市民を始めとする関係者が、顔を突き合わせて話し合うことが必要です。

その際に、まず市役所に求められることは、多くの人に関心を持っていただくために、積極的に情報提供することや、問題を浮き彫りにして議論しやすくすることです。

従って、これから本格的に策定作業に入る次期総合計画の策定作業においても、市民目線で市民のみなさんが興味を持つことができる切り口で議論を始め、議論の場に参加することができない人にも情報が伝わるよう、広報だけではなく、計画策定の過程を情報発信するためのミニコミ誌も発行して周知を図っていく予定です。

本市は、50年弱の間に人口が約5万人増え、快適で便利なまちと言われるようになりました。しかし、日常的なわずらわしいことがない生活を手に入れたことと引換えに、地域で暮らす人々の人間関係が、希薄になってしまったと感じています。

少子高齢化社会を迎え、安心安全に暮らすために、私たちはもう一度、まちの有り様を見つめ直し、市民同士のつながりをつくらなければなりません。つながりをつくるためには、まず市民同士が、知り合い、交流することが必要です。その一つのきっかけとして、「子ども達にどんなまちを残したいか」ということなどを話し合う計画づくりの場は、最適だと思います。

来年度は、総合計画の策定をきっかけに、今後の本市のまちづくりの方向を市民のみなさんと一緒に考え、市民のみなさんのものとなる「市民主体の計画づくり」を本格化

する年として積極的に取り組んでまいります。

(新年度予算の見込み)

さて、平成 29 年度における予算の見込みですが、歳入については、本市の税収は好調を維持しており、税収の増加を見込んでいます。

要因としては、第一に人口の増加です。平成 27 年国勢調査人口は 57,598 人で、平成 22 年と比較すると 10.7% 増加しており、全国の市区の中で増加率が 1 位でした。

転入世帯の多くは子育て世代であることから、今後も長久手に住みたい、長久手で子育てしたいと考えられている方に魅力的なまちになるように、また、これまで住んでいる方にも住んでいて良かったと感じていただけるまちづくりを進めていきます。

歳入面においては、良好な住環境の提供に努めてきた結

果、地価の上昇を生み、また、新築家屋も増え、まちづくりを支える、固定資産税の税収は順調に伸びています。

歳出面においては、増収が見込まれる自主財源を有効に活用し、社会基盤の整備、特に保育・教育施設の需要に対する受け皿を、遅滞なく整備していきます。合わせて、子育て世代の増加による需要増に対応するために、老朽化した保育園や学校の建替え・改修を進めていきます。その際には、将来の超高齢、人口減少社会を見据え、施設の利用形態を別の用途に変更することも想定して、施設の拡充・複合化を行っていきます。

（予算規模と財源）

それではまず、本議会に上程しています、平成 29 年度の当初予算案の規模と財源についてご説明申し上げます。予算規模は、

一般会計が 173 億 8,000 万円

8つの特別会計の合計額が 104億9,839万9千円
予算総額が 278億7,839万9千円
と、なりました。

一般会計の予算額を前年度当初予算と比較しますと、平成27、28年度で行ってきた愛知高速交通株式会社への第2次支援が終了したこと、公園西駅周辺土地区画整理事業が工事のピークを過ぎたため、特別会計への繰出金が減少したことなどから、12億6,000万円（6.8%）の減少となりました。なお、特別会計予算を合わせた予算総額では、21億4,778万円（7.2%）の減少となりました。

次に、財源を見ますと、歳入の柱となる市税は、人口増や大型商業施設の開業等の影響から、対前年度比2億5,820万円（2.5%）の増加を見込んでいます。なお、市税の歳入予算額に占める割合は61.7%、自主財源比率は72.5%となっており、景気の動向や補助金の増減などの影響が比較的少なく、高い安定性を示しています。

大型建設事業の財源については、社会資本整備総合交付金を始めとする、国や県の各種補助金等の特定財源を確保していくほか、将来に大きな負担を残さないという観点で、基金の活用及び計画的な地方債の借入れを行い、将来にわたって健全な財政運営を維持したいと考えています。なお、市債につきましては、文化の家大規模改修事業などに総額5億9,300万円の借入れを行います。

続きまして、新年度当初予算の主な事業について、ご説明申し上げます。

(将来を見据えたまちづくり)

次期総合計画を筆頭に、各種計画を策定しますが、いずれも市民生活に関係する計画であり、策定に際しては、市民に参加を呼びかけ、市民主体で作り上げていきます。

計画づくりに参加していただくことで、まちに関心を持

つ、知り合いが増える、交流する、まちに愛着が生まれるというきっかけにしていきたいと考えています。

平成 28 年度決算から運用を始める新しい財務書類については、これまで各自治体がそれぞれの方式で作成していた財務書類が、統一的な基準で全国の自治体が財務書類を作成することになるため、自治体同士の財務状況の比較がしやすくなります。財務書類を活用し、より正確な財政計画を作成し、長期にわたり安定した財政運営に努めていきます。

(いつまでも自分らしく生きるために)

高齢者や障がいのある方にとって、いつまでも住みなれた地域で自分らしい暮らしを続けられるまちであるためには、医療や介護、生活支援など、それぞれの分野の専門職の人たちが、連携しながらサービスを提供していく仕組みをつくることや、地域での介護予防活動や支え合い活動

を支援し、市民一人ひとりが自分たちの意欲や能力を発揮して、専門職の人たちとも協力しながら健やかに暮らせる仕組みをつくっていくことが必要になります。

具体的には、平成 30 年 4 月から障がい者相談支援センターを基幹型へ移行する予定のため、相談員を 3 人から 4 人に 1 人増員して、総合的・専門的な支援体制を強化します。

また、現在、北小学校区、西小学校区、市が洞小学校区の 3 小学校区で地区社協を設立していますが、このうち、北小学校区と西小学校区には、専任のコミュニティソーシャルワーカー（CSW）を配置しており、地域共生ステーションや集会所での相談、地域をまわっての個別相談、認知症予防等の地域福祉学習会を実施するなど、地域に根ざした活動により、複数の福祉課題への支援に取り組んでいます。

平成 29 年度は、新たに市が洞小学校区に CSW を 1 人配置して、課題の解決にあたります。

さらに、介護保険の分野では今年3月から新しい総合事業を開始します。介護予防や支え合いの活動を、市民が主体的に参画・創出して、行政が支援する形へと転換し、地域に住む一人ひとりが役割と居場所を持って、いつまでも住み慣れた地域でいきいきと暮らせるような仕組みづくりを進めます。

支援が必要な人は、市民一人ひとりで事情が異なることから、それぞれの事業で選択の幅を拡げて、その人らしい生活を支えていきます。

(子育て世帯を応援するまちづくり)

増加する保育需要に対応するために、移転新築工事を行っていた長湫北保育園が、今年4月に開園します。定員は最大266人と改築前の約2倍となります。また、長湫南保育園では、市内で8か所目となる障がい児の受入れを開始し、より身近な施設で、園児も保護者も安心して保育を受

けていただく体制を整えます。

さらに、共働き世帯を支援し、働きやすい環境を整えるため、南小学校内に市内で2か所目となる、放課後子ども教室と児童クラブを一体型にした施設の整備をするための設計を行い、平成30年度中のオープンを目指します。

現在進行中の下山土地区画整理事業や大型マンションの建設により、児童数の増加が見込まれる北小学校については、校舎の増築を行っていきます。平成31年4月の利用開始を目指し、平成29、30年度の2か年をかけて工事を行っていきます。

(あんしんして生活することができるまちづくり)

万が一、本市が大規模災害に見舞われたとき、市の業務を素早く再開させるために、業務継続計画（BCP）を策定します。

また、防火・防災意識を子どもの頃から高めていくため、

子ども消防団を設立します。小学校の高学年を中心とした組織とし、子どもを中心に親族や地域の方の防火・防災意識の底上げを図っていきます。

老朽化したインフラの修繕や整備は、遅延なく計画的に行っていきます。例えば、橋梁の予防的な修繕、架け替えを計画的に行っていくことで、橋梁の長寿命化及び耐震化を実施していきます。

2か年に及ぶ大規模改修を行っている文化の家については、工事が終了次第、一部施設を6月から順次開放していきます。

(自然の力を活かしたまちづくり)

“木は私たちの体の外にある、もう一つの肺”だと言われていています。みどりの力、自然の力を活かした事業を推進し、さらに住みよいまちを整備していきます。

具体的には、4月にオープンする長湫北保育園に隣接す

る中部1号緑地について、地域のみなさんと整備内容を検討し、緑地再生を通じて、地域の人と人とのつながりの醸成を図るほか、リニモ公園西駅周辺の香流川を近自然河川の護岸に改修します。また、今年度は香流川中上流部において、植樹を行い、景観だけでなく、市民のみなさんの憩いの場として利用することができるよう整備していきます。

公園西駅には、今年の秋に大型家具店が、いよいよ出店します。出店敷地内に植樹する緑の街並み形成事業等に対し、愛知県の補助金である「あいち森と緑づくり事業交付金」を活用し、自然と調和したみどりの街並みを推進していきます。

(環境に配慮したまちづくり)

本市は、交通の利便性の良さから名古屋市ベッドタウンとして発展してきました。名古屋市と豊田市に挟まれた

有利な場所であることに加え、愛知万博の理念を継承した自然に配慮したまちづくりを行ってきた結果、宅地の魅力が高まり、人口増につながってきたものと考えます。

これからも緑化をさらに進め、まちの価値を向上させるとともに、環境に配慮したまちづくりを公園西駅周辺地区で推進していくほか、市内の街路灯をLED化することにより消費電力を減らし、二酸化炭素排出量を削減する取組を始めるための調査を行うなど、環境に配慮したまちづくりを一層推進していきます。

(おわりに)

厚生労働省発表の平成 27 年度簡易生命表によると、90 歳まで生存する人の割合は、男性は 4 人に 1 人、女性は 2 人に 1 人だそうです。医学の進歩により、今の子ども達は 100 歳まで生きるのが当たり前になっていくのかもしれませんが。

人生 100 年の時代が到来するにあたり、私たちには、価値観、社会の仕組み、個人の人生設計も根底から見直すことが求められるでしょう。

長生きが幸せと感じられるためには、いつまでも現役で、地域に役割と居場所があり、住み慣れた地域で暮らし続けられる環境をつくるための取組を、私たちは今から進めなければなりません。

地域の中で、市民一人ひとりが生きがいや希望を持って暮らすには、何が必要でしょうか。

その答えは、一人ひとり、違うでしょう。これまでの行政は、計画をつくり、形を作り、早く答えを出すことを目指してきました。

答えが一つでないこと、正解のないことを市民と行政が一緒に考え、まとめていくことは、時間がかかることかもしれませぬ。しかし、私は、市民が集まり、多様な意見を出し合い、十分に時間を掛けて、議論することこそが、地方自治の原点であり、大変重要なことだと思っています。

すぐに答えが出せないものに関しては、市民と一緒に時間をかけて議論をし、試行や検証を重ねていくことで、ようやく事業の姿が見えてくることがあるかもしれません。悩んだり、苦労したりするわずらわしい過程を経て、計画を策定し、事業を実施していく、そうした行政運営に変わっていくことこそが、今、求められているものと考えています。

そのためには、職員は大きな課題を背負うこととなりますが、市民が主体となる新しいまちのかたちを目指していきます。議員の皆様方の格別のご理解とご協力をお願い申し上げます。

以上、平成 29 年度の当初予算編成にあたり、私の施政方針と予算の概要を述べさせていただきました。

繰り返しとなりますが、市民の皆様及び議員各位のご支援とご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。